



社会医療法人 岡本病院(財団)

理念 慈仁

いつくしみの心で、すべての命に平等に向きあう
2016年1月 社会医療法人 岡本病院(財団)



1 京都岡本記念病院

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100
TEL 0774-48-5500

- ひまわり保育園
京都岡本記念病院内



2 伏見岡本病院

〒612-8083 京都府京都市伏見区京町9-50
TEL 075-611-1114

- 居宅介護支援事業所 ふれあい
〒612-8082 京都府京都市伏見区岡替町14-157
TEL 075-622-5539

- 訪問看護ステーション ふれあい
伏見岡本病院内
TEL 075-603-7643

- 伏見岡本デイケアセンター
伏見岡本病院内
TEL 075-603-7633

3 おかもとクリニック

〒611-0025 京都府宇治市神明石塚54-18
TEL 0774-45-4110

- 岡本介護支援センター ひまわり
おかもとクリニック内
TEL 0774-46-7831

- 訪問看護ステーション ひまわり
おかもとクリニック内
TEL 0774-46-1711

- おかもとクリニック通所リハビリテーションセンター
おかもとクリニック内
TEL 0774-46-0011

- 宇治おかもと安心介護の家(小規模多機能型)
おかもとクリニック内
TEL 0774-46-3311

慈仁
Jijin
新しいことの気づき

新春を迎えお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症から4年目に入り、先行きの読みにくい時代と実感しながらも、今年はどうのような一年になるのかと祈りにも似た思いを込めています。そんな日常の中で、幼子と過ごす穏やかな時間があります。幼子は次々に「これはなあに」「どうして」と尋ねてきます。目に映るものに触れるものに興味津々、「なぜ」「なぜ」が溢れ出るのでしょうか。そして、ある瞬間「そうか」「わかった」と言い、何かを納得した誇らしげな笑顔を見せます。そんなひときは、私自身が今まで考えもしなかったことにあらためて気づかされる時もあります。何気なく過ごす日常に新たな気づき

きがあり、日常の習慣がいかに大切であるかを思い知ります。

年の初めは新たな事への挑戦に胸が弾みます。私たち京都岡本記念病院は地域の皆様の期待に応えられる病院として、患者さんを第一に考え、さらに成長していかなければなりません。そんな時、思うことは「百万一心」一日、一力、一心です。みんなの心を一つにして一つの事を成し遂げる。私もその一員として、安全で質の高い医療・看護の提供に尽力していきたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い致します。

京都岡本記念病院
院長付看護専門職・看護部長補佐
御牧 邦子

〈表紙の人 感染管理対策室スタッフ (左から)感染症科 部長 中西 雅樹 / 看護部 課長 感染制御実践看護師 村中 理奈 / 感染管理対策室 川本 克也 / 感染管理対策室 主任 須藤 愛 : 4~5ページに記事〉

●地域とともに歩む“岡本病院”の広報誌 ステップアップ

Step Up

みんなで一歩



特集
「感染症の文化」をみんなへ 地域へ
京都岡本記念病院 感染症科

All Okamoto For One
伏見岡本病院
患者さん、ご家族に不安な思いをさせないように
京都岡本記念病院
その人が社会で「できること」から考える
社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)



社会医療法人 岡本病院(財団)

2023年も よろしく願いいたします



社会医療法人
岡本病院(財団) 会長
伏見岡本病院 院長
おかもと とよひろ
岡本 豊洋



京都岡本記念病院
院長
たかぎ としたか
高木 敏貴

地域と共に一層の発展を

新年おめでとうございます。

新型コロナが発生して3年、その勢いには沈静化の兆しも伺えますが、地域によっては「医療崩壊」の危機にさらされています。新年を迎えて今なお気を緩めることができません。

さて、「少子高齢化」と「人口減少」が迫りくるなか、「令和は病院経営の大きな転換の時代になる」といわれてきました。幸か不幸か、この「コロナ感染症の流行」は現下の医療体制の脆弱さのみならず、これまでの医療政策の問題点や今後の課題を教えてくれているのではないかと、前向きに受けとめています。今こそ「正しい理解と判断」が欠かせません。まさに「経営力」が問われています。「あるべき地域医療」に向き合い、しっかりと方向性を見定め、当法人の各施設の与えられている役割と機能を再構築しなければならないとあらためて痛感しております。

「地域を支え、地域に支えられる病院」として地域と共に生き、地域に貢献できることを願っております。今年もよろしくお願いいたします。

コロナ禍においても進歩を止めず

新年明けましておめでとうございます。この冊子をご覧の皆様には日頃より多大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。

2022年も当院は新型コロナ感染症への対応に迫られ、患者様やご家族の皆様には大変なご迷惑とご不便をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。また、当院の職員においては、コロナ感染や濃厚接触により非常に多くの休務者が出るなか、逼迫する診療や救急業務、感染者への対応など献身的な働きをされた事、改めて感謝いたします。

京都岡本記念病院はコロナ禍においても自らの進歩を止めないという決意のもと、先進医療への投資、医療安全性の向上、職員の勤務環境の改善に積極的に取り組んでまいりました。

診療面においては、より安全で低侵襲なロボット手術(da Vinci Xi)を導入し軌道に乗せる事ができました。患者様にとっては安全面や術後の早期回復、合併症の軽減などに大きな恩恵をもたらしました。また、TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)を2022年11月より導入施行いたしております。心臓の弁疾患に低侵襲治療の選択肢を提供できる体制が整いました。

当院は今後も最先端の治療を安全にお届けできる医療機関を目指し、また、「地域を支え地域に支えられる」病院・介護施設として住民の皆様、地域の医療・介護に貢献できるよう日々精進してまいります。本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。



社会医療法人
岡本病院(財団) 理事長
ふじい しんご
藤井 信吾

どのような時代にも見失わないように

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

新型コロナウイルスが日本で確認されてから3年が経過しましたが、未だにパンデミックから脱出することはできていません。しかし、ワクチンや飲み薬の開発等、いろいろな新型コロナウイルスへの対処方法ができるようになり、3年前の未知のウイルスへの無知な状態とは随分と異なってきました。最初の頃のウイルスの毒性の強さは、われわれ医療者にも恐怖を与えてきましたが、最近ではウイルスの変異とともに感染力の増強はあるが、重症化が少ない状態が分かってまいりました。それにつれて、随分と社会生活の制限も緩和されてまいりました。これからは、次第に新型コロナウイルスと共生する世界になるものと予想されます。

当法人では、このコロナ危機の間に生じる問題を好機にして、この間にも、組織の見直しを行い、DX(デジタルトランスフォーメーション)を進め、コロナ終息後を見据えた新規機器の導入を行ってまいりました。そして、病院の南側の敷地に2025年開院予定の回復期リハビリテーション病院の計画も、本年からようやく本格的に始動します。

日本の医療の根底には、奉仕の精神が流れていて、患者さんに安心と安全を提供することを医療者の使命としています。当法人は、1906(明治39)年の診療所開設時から一貫して、慈しみの心で、すべての命に平等に向き合う「慈仁」の精神でこれを実践してきました。今後、コロナ禍がいつまで続き、また、それによって社会がいかに変容するかは予測できませんが、どのような時代にあっても当法人のミッションは何か、どう地域に貢献していけるのかを、見失わないようにしていきたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

第4回 慈仁賞・岡本賞が決定

社会医療法人 岡本病院(財団)では第4回「慈仁賞・岡本賞」の受賞者を法人幹部による選定委員会と、会長・理事長らの2次にわたる厳正な審査で昨年10月に決定しました。

これは、法人の発展と地域の医療・介護を支えた方々に感謝の気持ちを伝えたいとの岡本豊洋会長と亡き夫人の意思で、法人設立65周年を記念して創設された賞です。表彰対象は法人職員、法人に関わる業者、ボランティアなどです。

今回、慈仁賞は伏見岡本病院が給食業務を委託している(株)塩梅の調理師チームに、食材費高騰下のきめ細やかな対応に対して贈られました。岡本賞には2021年度627件の救急搬送を安全・迅速に行った京都岡本記念病院 救急救命士科ら、3チーム・2個人が選ばれました。



京都岡本記念病院での表彰式



伏見岡本病院での表彰式

「感染症の文化」を みんなへ 地域へ

京都岡本記念病院 感染症科

部長 なかにし まさき
中西 雅樹

京都岡本記念病院の感染症科は、2022年4月に新しく開設されました。
院内や地域の感染対策や抗菌薬適正使用に力を注いでいます。



Q「感染症科」は、どの病院にもあるのですか？

感染症専門医は全国に1,700人弱。感染症は、患者さんも元気な方も医療従事者も、全ての人がかかるかもしれない身近な病気ですが、専門医の数や開設している病院数は他の診療科に比べて圧倒的に少ないです。どんな診療科かイメージしにくいかもしれませんね。

Qどんな病気を扱う診療科ですか？

感染症とは、ウイルスや細菌など病気の元となる微生物が人の体内に侵入して定着し、増殖して引き起こす病気のことをいいます。
麻疹も、インフルエンザも、世界的に大流行している新型コロナウイルスも感染症の1つです。

当科では外来や入院患者さんの診察も行っていますが、感染症は、かからないようにする事や適切に治療を行う事が非常に重要です。病院内で、そして地域で、感染症予防や抗菌薬適正使用の啓発を行い、「感染症について考える文化」を広げていく事が感染症科の重要な仕事です。

Q「感染症の文化」の普及とは例えばどのような事を？



院 内

院内には感染に関係する多職種のチームが活動しています。感染症科は専門的立場でその全てに関わっています。

例えばICT(感染制御チーム)では毎週1回、院内を見回り、感染につながる環境や問題点に改善提案などを行っています。同じくAST(抗菌薬適正使用支援チーム)も毎週、抗菌薬の適正使用(※次頁参照)に関して院内を見回っています。

- 感染管理対策室
- 抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: AST)
- 感染制御チーム (Infection Control Team: ICT)
- COVID-19対策本部



▲院長と看護部長がモデル出演している手洗いポスター

院 外

京都と滋賀の3つの病院のAST活動を支援しています。また、京都府の要請により、新型コロナウイルス感染症の感染対策を支援するため、病院や高齢者施設などで各種指導を行っています。

「抗菌薬適正使用」とは？ 抗菌薬を不必要に多用すると効かなくなる菌が増えてしまいます

薬剤耐性菌をご存じでしょうか。感染症に有効な抗菌薬(抗生物質および合成抗菌薬)が開発され、さまざまな感染症の治療にさかんに使われるようになったのですが、1980年以降、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)など、抗菌薬が効きにくい、効かなくなる「薬剤耐性(Antimicrobial Resistance: AMR)」を有する菌(=薬剤耐性菌)が世界中で増えるようになりました。必要のない抗菌薬を使用する事が耐性菌の出現原因の1つと考えられ、抗菌薬の適正利用は世界的な使命です。

当院のASTでは、週に1回、多職種のチームで抗菌薬適正使用について院内を見回っています。推奨される抗菌薬やその投与量・治療期間、狭域化の可否等の情報提供を行っています。

抗菌薬適正使用の知識を地域へ 地域には抗菌薬に明るい専門医が足りません

京都府と滋賀県には入院ベッドのある医療機関が合わせて約350施設ありますが、感染症専門医の数は京都府内に42名、滋賀県内に11名(2022年4月15日現在)と極めて少数です。ASTはあっても、感染症専門医が不在という医療機関も多いです。

そこで、感染症専門医のいない医療機関でもAST活動の専門的な知識と具体的な対策を共有できるよう、インターネットを通じた講義のシステムを本年4月から開始予定です。今後は、地域医療機関向けに感染症勉強会を開催し、感染対策や抗菌薬使用に関する情報提供や情報交換ができることを目指しています。



☑ 受診するには

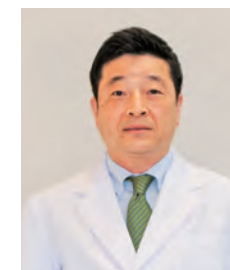
京都岡本記念病院 感染症科

京都岡本記念病院 感染症科外来は、水曜日の午前に、予約制で院内の入院患者さんや地域の医療機関からのご紹介患者さんを診ています。

感染症がご心配な方は、まずはかかりつけ医にご相談ください。

受付時間	月～土曜 8時～12時 ※診察は9時～
休診日	日曜、祝日、年末年始(12月30日～1月3日) 救急・急患は24時間・365日対応しています

● TEL 0774-48-5500 (代) 京都岡本記念病院



部長
(感染管理対策室 室長)
なかにし まさき
中西 雅樹
兵庫医科大学卒 (H7年)

資格など

日本内科学会認定内科医/日本感染症学会専門医/日本呼吸器学会専門医・指導医/日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医/日本渡航医学会認定医療職/ICD制度協議会認定ICD(インフェクションコントロールドクター)/タイ国マヒドン大学熱帯医学大学院(diploma in tropical medicine & hygiene)

研究課題・専門分野

薬剤耐性菌・感染症疾患/呼吸器疾患

All Okamoto For One

All For One(みんなは一人のために)。現代の医療・介護現場では多様な技能・技術を持つプロフェッショナルがチームを組み、患者さんの治療やケアに当たっています。

今回は、入院から退院まで、患者さんの身体的・精神的・経済的さまざまな問題に対して支援を行う社会福祉士に話をうかがいました。病院の機能によってその仕事内容は異なります。

社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)

伏見岡本病院

患者さん、ご家族に不安な思いをさせないように

地域医療連携室

主任 中森 江梨 社会福祉士歴約 11 年。おかもと歴約 12 年。

Q. 社会福祉士になろうと思ったきっかけは？

中森 大学の社会福祉学科在学中に祖父が介護サービスを利用するようになり、多様なニーズに応える介護職を見て「福祉の仕事ってカッコいい」という思いを強くし、社会福祉士の資格を取得。大学卒業とともに社会医療法人 岡本病院(財団)に勤務しました。



Q. 伏見岡本病院での仕事内容は？

中森 伏見岡本病院では、全入院患者さんの入院から退院までを、2人の社会福祉士で担当しています。私が勤め始めた頃の伏見岡本病院は慢性期(※1)の病院で、患者さんがお住まいの地域も近隣に限られ、退院に向けて動くケースも少なかったです。それが、行政が求める病院の役割がポストアキュート(※2)・サブアキュート(※3)に変わり、いろいろな地域の施設や病院との連携も重要になりました。病院の方向転換の頃は仕事のやり方を大きく変えなくてはならず、苦労しました。

Q. 仕事上の悩みは？

中森 退院のときには、ご本人の希望と身体状態、医師やリハビリ担当者など医療職からの意見、ご家族の希望、ご自宅の状態と、さまざまな事を考慮し、ご本人にとって一番良い方法を探します。どんなに福祉サービスを活用しても、ご希望と現実がかみ合わない事もあり、ご自宅に帰りたいというご希望をかなえられなかったときには、本当に方法がなかったかと、いつまでもひきずってしまいます。



多職種で毎朝カンファレンス

Q. 仕事上心掛けていることはありますか？

中森 「患者さん、ご家族に不安な思いをさせない」事を心掛け、その人その人に合わせたお声掛けの工夫をしています。患者さんやご家族にお会いするときには、毎回「相談員の中森です!」と、名乗るようにしています。

【社会福祉士】 しゃかいふくしし

社会福祉専門職の国家資格で、身体的・精神的・経済的な理由で日常生活に支障がある人の相談に応じ、支援や調整業務を行う。障害者や児童の福祉施設など活躍の場は多岐にわたるが、特に病院では「医療ソーシャルワーカー」と呼ばれ、医療職とは異なる社会福祉の立場から、入院から退院、社会復帰までの支援を担う。伏見岡本病院では2人、京都岡本記念病院では9人が活躍中。

京都岡本記念病院

その人が社会で「できること」から考える

地域医療連携部 患者支援課

主任 松井 優佳 社会福祉士歴約 20 年。おかもと歴約 15 年。

主任 倉持 花奈 社会福祉士歴約 21 年。おかもと歴 1 年未満。



◀松井優佳



倉持花奈▶

Q. 病院の社会福祉士はどんなお仕事ですか？

倉持 期日までに入院・退院を調える「調整役」と思われがちですが、私たちの仕事は、患者さんが疾病や障害を抱えながらどのように生活していくかを患者家族とともに考えることです。

松井 お気持ちを大事にしつつも、身体状態、ご家族の状況、就業のことなど、患者さんの社会的な現実を客観的に見て援助します。単なる「調整役」ならば期日厳守の結果だけが重要ですが、私たちはプロセスを大事にしたいです。

Q. 京都岡本記念病院での仕事内容とは？

松井 伏見岡本病院との大きな違いは、急性期(※4)を担う病院である事です。救急からの緊急入院など、患者さんの情報が不十分な場合も多々あります。急性期の病院は入院期間も短く、短期間に患者さんやご家族と関係性を築かねばなりません。充分に関わりきれないままに退院を迎えたのではと、やりきれなさを感じる事もある程です。

Q. コロナ禍での難しさはありますか？

松井 コロナ前には面会の際にベッドサイドで自然にご家族とお話できたのが、今は何度もお会いする事ができません。タイトな時間のなか、1回の面談で関係性をつくって凝縮してお話するのは難しく、ご家族にとってもストレスではないかと心配しています。

倉持 家族が面会や対面による説明の機会が少なくなり、特に入院患者さんの状態が理解しにくくご不安も高いと実感します。でも、患者家族は、第一に退院後も病気や治療が今後どうなるかを知りたいし、その受け止めや覚悟ができるよう、病院は説明する場面がより必要だと感じています。

Q. 仕事のやりがいは？

倉持 医療は、身体の悪いところ(病気)に焦点を当てますが、私たちはその人の生きてきた中で培われた「強み(ストレングス)」に着目し、生活の観点から総合的な視点で支援します。医療と支援が相まって、患者さんが生活に戻れるようになるとうれしいです。

松井 病院では「チーム医療が大切」ですが、“社会”福祉士の仕事は、院内に留まらず、地域全体のチームで組織的に患者さんへの支援を行います。多職種が1つの方向を向いて支援ができたとき、チームのみんな喜び合えるのが、この仕事の楽しさだと思います。



患者さんのベッドサイドで

※1) 慢性期: 治療は困難だが病状は比較的安定しており、緩やかに病気の進行が続く時期。

※2) ポストアキュート: 他院で急性期治療を終えた直後。

※3) サブアキュート: ご自宅で療養中に状態が急に悪くなる状態。

※4) 急性期: 症状が現れる時期・容態が安定しない時期。

「補装具外来」ってなんですか?

京都岡本記念病院
リハビリテーション部
主任 高橋 慎太郎

このコーナーは、医療福祉の新しいサービス、健康づくりに役立つ情報を紹介します。今回は京都岡本記念病院の「補装具外来」について紹介します。



Q 補装具って何ですか?

A 下肢装具や義足、車椅子、杖など、体の機能を補うために使う用具です。補装具は使っているうちに、器具にゆるみなどが生じてきたり、身体の変化が変化したりして、使いづらくなっている場合があります。



Q 補装具外来では何をするのですか?

A 補装具のお困りごと全般に対応します。まず、身体に合っているか適合判定をし、修理やメンテナンスをしたり、新たな補装具導入や、練習方法を提案する場合があります。

Q 病院で用具の修理までできるのですか?

A リハビリテーション科医師、理学療法士、義肢装具士のチームで対応しておりますので、修理やメンテナンスまでご相談に応じます。



Q 利用するにはどうすればよいですか?

A 補装具外来の受診は予約制です。まずはお気軽にお電話でお問い合わせください。

下記のような方におすすめです。

- ・退院してから装具の補修や点検を一度もしていない。
- ・一部分、壊れているけど、だましまし使っている。
- ・長い間、同じ装具を使用しているが、身体の変化が変ってきた。このままの装具で良いのか、一度確認したい。

京都岡本記念病院 補装具外来

外来日時(予約制)
毎月 第1・3・5月曜日 15:00~16:00

お電話で「補装具外来」と
問い合わせでご予約ください。

☎ 0774-48-5566
(補装具外来担当窓口:リハビリテーション部)

カラダ
からだ

~自宅で介護・介護予防 アドバイス~
身体介助やリハビリなど「身体」に関わる専門職ならではの知識や技術を、わかりやすくお伝えします。

今回のテーマ

認知症の予防には「生活習慣」「人との交流」を

いのうえ けいこ
京都岡本記念病院 井上 桂子 (認知症看護認定看護師)



2025年には5人に1人が認知症という推計があります。身近な人も自分も…誰もがなるかもしれない認知症。予防には、「①生活習慣」「②人との交流」が重要です。

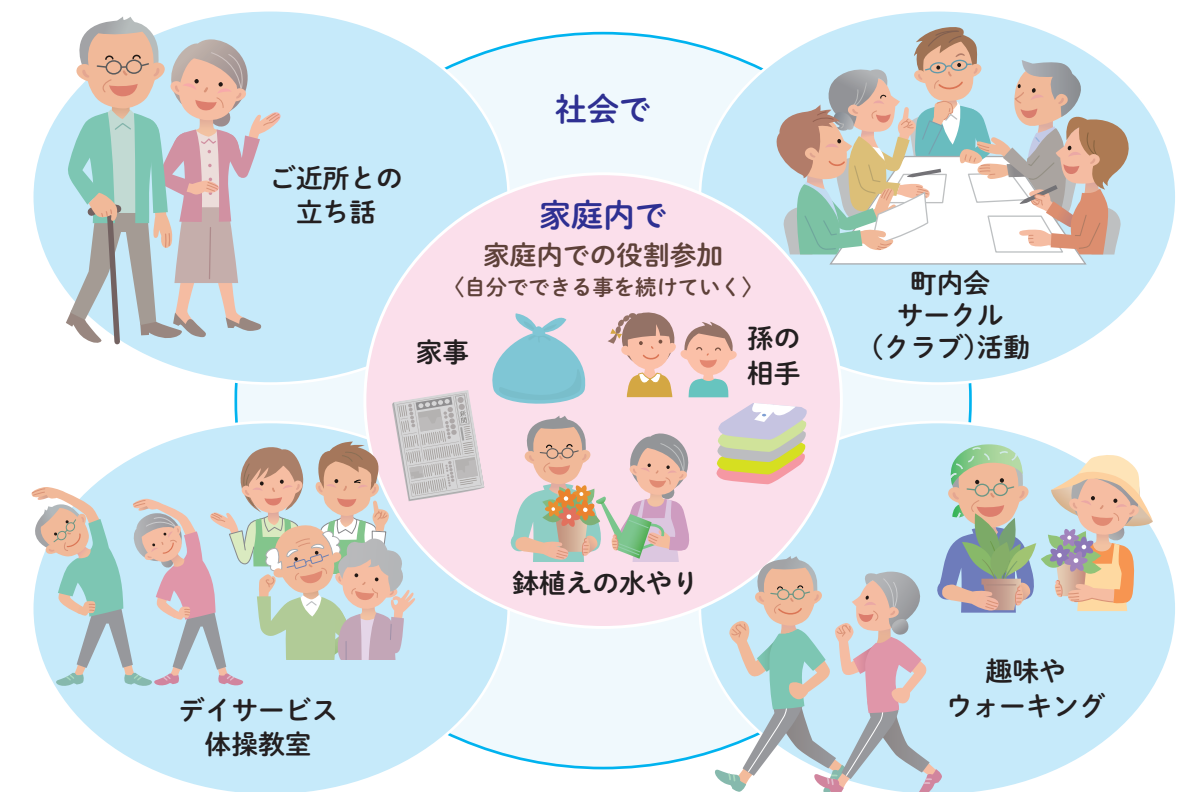
①生活習慣

バランスのよい食事・運動・睡眠 など

②人との交流

役割参加 など

一番大事なことは、楽しむ事です。笑顔で過ごしましょう。



*人との交流場面では感染予防の対策をしましょう。

〈ここのポイント〉
認知症は早期発見!

こんな事ないですか?

1. 短時間で同じ話を話す (聞く)
2. いつも探し物をしている (増えた)
3. 趣味活動などを止めてしまった

このような症状があれば、もの忘れ外来に相談ください。

京都岡本記念病院 もの忘れ外来(完全予約制) TEL 0774-48-5500(病院代表)

Withあなたの街のお医者さん

小児科 内科 消化器内科
むらたファミリークリニック

むらた しんや
村田 真野 院長

全国的に小児科医が不足するなか、地元の人々に熱望され、院長が生まれ育った地で2021年に開業した。「コロナ禍で開院時に内覧会もできなかったのですが、友人らが口コミで宣伝し、スタッフも集まって来てくれました。地元を支えるつもりが支えられています」

小児科医は発熱を診るのが仕事で、コロナ禍にあってもコロナ疑い患者を区別して診療するのは難しい。「昨年は街の発熱外来のようになって1年で700人の陽性者を診断しました。でも地域のニーズに応えたいと思って。頼りにしていると言われるとかかりつけ医冥利に尽きる」

「小児科診療は子育て支援」と言い切る村田院長は、家庭背景にまで目を配る。「風邪の子どもを連れてきたお母さんの方がしんどそうだったり。おじいちゃん

が孫の話をしてくれたり。小さな街で内科を診るのに、年齢では区切れません」と、「0歳から100歳超まで」を掲げる。

長く勤務医として過ごした病院の近くではなく、地元で開業したのは、120%の力が出せるからだという。昨年、同じ地元育ちで高校の同級生でもある杉谷義彦医師が、すぐ近くに「すぎたに内科クリニック」を開業した。商売敵であるはずの院長同士は、同じ地元愛でつながり、助け合って地域を支えている。



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:00	●	●	●	—	●	●
午後 2:00～4:00	★	★	★	—	★	—
午後 4:00～7:00	●	●	●	—	●	—

休診日：木曜・土曜午後・日曜・祝日
★昼診：一般診療は行っていません／内視鏡検査・健診・ワクチン接種を行っています

所在地	〒614-8374 京都府八幡市男山石城8-19
電話番号	075-925-6030
アクセス	バス停「くすのき小学校前」 「中央センター前」「公園前」 から徒歩2～3分
URL	https://murata-fc.com/ WEB予約あり
駐車場	7台



▲WEBページ



寒さ厳しい季節が旬 ブリ

京都岡本記念病院 栄養管理科
いまざわ しょうこ
今澤 祥子（管理栄養士）

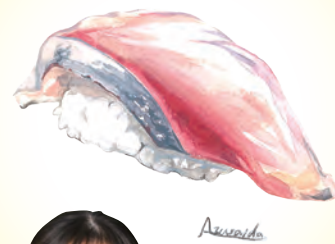
養殖も盛んなブリは、ほぼ1年中スーパーで見かける魚ですが、天然のブリは12月から2月の冬の時期が旬です。また、成長とともに呼び名が変わり、関西では小さいサイズから順にツバス→ハマチ→メジロ→ブリと呼ばれます。このように成長によって呼び方が変わることから「出世魚」と呼ばれ、縁起の良い魚といわれています。お正月に召し上がる方も多いのではないのでしょうか。

ブリにはDHA・EPAが豊富に含まれており、動脈硬化の予防・改善やアレルギー症状の緩和などに効果があるといわれています。また、ビタミンDも豊富に含まれています。カルシウムの多い食材と一緒に食べることでカルシウムの吸収率をアップすることができ、

骨粗鬆症の予防にも効果が期待できます。ブリは小骨も少なく、刺身・煮物・焼き物・お鍋などさまざまな料理に適しているのといろんな楽しみ方ができます。旬のおいしい食材を取り入れ、季節を感じてみてはいかがでしょうか。

おいしいブリの選び方

- ・血合いの色が鮮やか
- ・皮がつややかで、身にハリとツヤがある
- ・身に白いサシが入っている
- ・ドリップが出ていない



news & topics

京都岡本
記念病院

より良い医療連携のために 第18回「地域連携の会」3年ぶりに対面開催

京都岡本記念病院主催の「地域連携の会」が2022年10月22日、会場（おかもとホール）とオンラインで開催され、同院の医師・職員や地域の医師ら合わせて約90人が参加しました。これは同院と地域の医療機関とのより良い連携を目的とするもので、コロナ禍の昨年はオンラインで行い、対面での開催は3年ぶりとなりました。

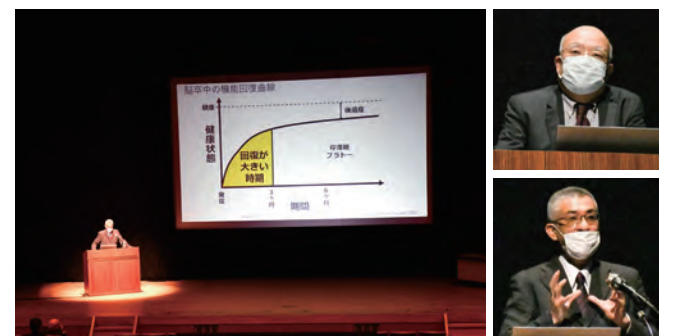
今後も地域との連携を深め、切れ目のない医療提供に貢献してまいります。



伏見
岡本病院

世界脳卒中デー 市民公開講座に登壇

日本脳卒中協会が正しい知識の普及のために決定した「世界脳卒中デー」の2022年10月29日、京都市呉竹文化センター（伏見区）で市民向けの公開講座が行われました。「脳卒中の後遺症、手足のつっぱり」をテーマに、伏見岡本病院から塚原徹也副院長（写真右上）とリハビリテーション科三浦雄一郎技師長（写真右下）が登壇し、訪れた市民は熱心に聞き入っていました。



京都岡本
記念病院

切れ目のないがん医療を 第2回がん地域医療連携を考える会 開催

地域がん診療連携拠点病院の京都岡本記念病院と宇治徳洲会病院の共催で「がん地域医療連携を考える会」が2022年11月12日、会場（おかもとホール）とオンラインのハイブリッドで開催されました。

これは山城北医療圏で切れ目なくがん医療を提供するため、行政、病院、診療所、薬局、施設、在宅介護、訪問看護などの連携を深めることを目的としており、今回が2回目となります。

当日は院内外から医師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員など約100人が参加。コロナ禍のがん診療をテーマに、在宅医や訪問看護から6つの講演が行われ、当院からは消化器外科山本芳樹副部長が病院の立場から発表しました。同会は今後も継続して開催していく予定です。



新着
任医師

2022年10月1日入職
すがや しょうた
菅谷 翔太

京都岡本記念病院
耳鼻咽喉科／専攻医
京都府立医科大学卒（R2年）

（患者さんへ）「診てもらえてよかった」と思っていた
だけのような医師になれるよう努力していきます。